

平成 25 年 2 月 27 日

原子力災害対策部会での中間報告案の議論・検討の状況について

1 原子力災害対策部会の概要

(1) 日時

平成 24 年 11 月 20 日 (火)

(2) 議事

富山県地域防災計画（原子力災害編）の中間報告案

2 部会での主なご意見

①UPZについては概ね30kmで妥当である。

なお、国が実施した放射性物質拡散シミュレーションについては、地形情報や風向・風速等の気象条件の設定に課題があることから、UPZ設定の参考としてこうした条件を加味したSPEEDIによる試算を併せて実施することが必要

②立地県である石川県との協力体制については、連絡会議を設置し、避難など防災対策の連携が進められており、評価できる

③医療関係者が、被ばく医療について一定の知識を有していることが大事であり、そのための研修実施が必要。その上で、特定の病院が汚染患者を受け入れることができるような体制を地域で構築することが重要

④情報伝達体制については、UPZの内外に関わらず、迅速に、国、石川県、市町村、関係機関や住民などへ連絡する体制づくりが必要

⑤地震等の自然災害との複合災害については、とりわけ北陸地方では、冬季の雪害時の避難のリスク、防災要員の確保、モニタリングの困難等への対応が必要

3 本防災会議に提案した改定案について

原子力災害対策部会でのご意見や、2月27日改定の原子力災害対策指針を踏まえ、必要な追加、修正を行ったもの